

「創立100周年記念事業のご案内」 リーフレット作成中です!

このたび、病院を利用する患者さんや一般の方向けに、「創立100周年記念事業のご案内」と題し、気軽に手に取れるサイズのものを作ることと、A4観音折のリーフレットを作成することになりました。

患者さんをはじめ一般の方に、東京医科大学の100周年について、よりご理解いただけるよう、病院の受付等に順次設置していきます。

【お問い合わせ先】 財務部募金センター(内線400)

Coming
Soon!!

100周年かわら版



2015
(平成27年)

第5号

発行:東京医科大学創立
100周年事業広報委員会

創立100周年記念 “全員参加企画” 「思い出の写真」大募集 6月スタート!

—あなたのその一枚が、東京医大の歴史を彩る—

2016年に創立100周年を迎えるにあたり、教職員・学生全員参加企画として、「東京医大と私」の思い出の写真を募集いたします。

皆さまがお持ちの写真の中から、「東医の歴史」として後世に遺したいと思う写真をぜひご応募ください。

ご応募いただきました写真は、大学ホームページ創立100周年特設サイトや100周年かわら版、創立100周年記念壁面シートなどに掲出していく予定です。詳細は募集ポスター、サイボウズ掲示板にてお知らせします。

【お問い合わせ先】
法人経営企画・広報室(内線298)

皆さまからのご応募、お待ちしております!

100周年広報専用掲示板を 大学病院・大学に設置しました!

大学病院



@本館6階 職員食堂横



@自主自学館 渡り廊下
(2階・6階)

大学



@基礎新館横



@第3校舎1階

「100周年かわら版」をはじめ100周年広報に関わるいろいろなお知らせを、少しでも多くの方に見て頂き、「100周年」をより身近に感じて頂きたい!という想いから、大学病院と大学に100周年広報専用の掲示板を設置しました!(茨城・八王子にも順次設置予定です) 大学病院は、本館6階の職員食堂横と、教育研究棟(自主自学館)の渡り廊下(2階・6階)に設置しています。目印はこのプレートです!ぜひ、ご覧ください。



事務局:法人経営企画・広報室

☎03-3351-6141(内線298)

✉keiei@tokyo-med.ac.jp



<http://www.tokyo-med.ac.jp/100years/>

ありがとうございます



100周年
さんかく娘♪

看護学科イメージキャラクターの「さんかく娘」です!わたしも100周年広報サポーターになりました!今回から、かわら版にもちょくちょく登場します!ちなみに、大学のある新宿キャンパスの100周年掲示板は、基礎新館横と第3校舎1階にあります!みなさん、見に来てくださいね!

100周年広報サポーター、略して100サポには、さんかく娘を含め、現在50人の学生・教職員の方が登録して下さり、広報活動に協力して頂いています!

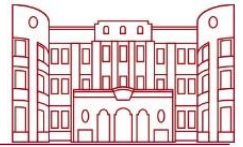


連載企画

歴史に学び、
歴史を創る。

大学病院特集

第4章 なぜ今、大学と大学病院は離れているのか?



これまで、この「歴史に学び、歴史を創る。」の連載企画では、建学に関わる「大学」の歴史に焦点を当ててきました。5月は、昭和6年(1931)5月10日 附属淀橋診療所が開設されたり、昭和21年(1946)5月15日 東京医科大学設置が認可され、淀橋病院が東京医科大学病院に改称されたりと、ちょうど大学病院の歴史が大きく動いた月。平成28年(2016)は、大学創立100周年というだけでなく、淀橋病院としては85周年、東京医科大学病院としては70周年の節目の年ということで、今月号から全3回で「大学病院」に焦点を当て、「大学病院のルーツ」を紹介していきます。その後、茨城・八王子のルーツも順次、紐解いていく予定です。

大学が新宿にできた理由

東京医科大学が都心・新宿という好立地にあるのは、あらゆる面において、医科大学として大きな強みになっていますが、そもそもなぜ、大学が新宿にできたのかみなさんご存知ですか?

日本医学専門学校(現 日本医科大学)を総退学し、理想とする医学校を自らの手で作り上げようとした学生たち。当然、その時点では土地も建物もありませんでした。学祖高橋琢也先生の支援を受け、大正5年(1916)9月11日、神楽坂にあった東京物理学校(現 東京理科大学)内に間借りして東京医学講習所を開設したのが、東京医科大学の始まりです。

臨床実習においても、御茶の水にある順天堂医院を外科研修病院として間借りしており、そうした場所から近く都心で、大学として利用できる広大な土地を探し求めた結果、折り良くその条件にあう適度な面積の土地が、現在新宿キャンパスのある東大久保(※1)に見つかったのです。その取得にあたり、高橋学祖が全私財を投入し、学祖と学生団が全国を奔走して資金調達活動を行った末、大正6年土地の購入にこぎつけたのです。そうして翌年の大正7年4月、東京医学専門学校の設置が認可されたのです。

博済病院本館
<大正13年6月落成>
(現新宿キャンパス)



(監修:東京医科大学図書館)

この博済病院の正門柱、見覚えがありませんか?
実はこの柱だけ長年の風雪に耐えて、東京大空襲をも乗り越え、新宿キャンパスの正門として、今も本学を見守り続けているのです!



【NEXT】次号では、なぜ西新宿の今の土地が選ばれたか、その理由に迫ります。お楽しみに!

運命を変えた、二度の病院火災

大正7年5月、当時内科研修病院として間借りしていた、麴町にある回生病院(※2)の建物を買収して東大久保の地に移築し、附属病院として「博済病院(はくさいびやういん)」(※3)を開院しました。

次いで大正9年、解剖学、生理学、医化学などの基礎教室を設置し、さらに大正13年には附属病院本館も完成し、ようやく「医学専門学校の形」が整ったのも束の間、本学は二度の火災という不運に見舞われました。

昭和3年3月、博済病院の入院病棟と基礎教室の大半が焼失、さらには、牛込にある戸山脳病院(昭和2年9月に買収)も昭和4年2月に全焼してしまったのです。その後、火災に耐える設備として、鉄筋コンクリート造の施設の建築が求められ、同年10月に第一校舎が落成したのです。

その後、大学昇格運動の一環として、火災により焼失した附属病院に替わる建物を速やかに取得する必要があったものの、東大久保の土地ではそれ以上発展の余地がないとして、病院は他の土地に転出すべきだと論議が交わされた結果、大学病院は大学とは離れた土地に作られることになり、昭和6年5月、西新宿に附属淀橋診療所が開設されたのです。

淀橋診療所
<昭和6年5月開院>
(現西新宿キャンパス)



※1 東大久保:昭和53年に地名消滅。店舗名・マンション名などに名を残す
※2 中濱東一郎氏(ジョン万次郎の長男。本学内科学教授、初代顧問)が経営
※3 佐藤進男爵(順天堂第三代堂主。本学初代顧問)が命名

えんがわ広報。

第5号からは「編集後記」を「えんがわ広報。」と題して、100周年の活動を「やわらかく」お伝えしていきます!
現在、大学病院歴史写真パネルシートと大学年表シート制作、100周年広報サポーターのみなさんにアンケートでアイデアを募ったりと、地道ではありますが、作業を進めております!
ぜひ、みなさんも100周年にちなんだアイデアがありましたら、事務局までメールをください。お待ちしております〜♪(R)

東京医大オリジナルクッキー
東医社にて好評発売中!!

伝統ある東京医大の校章マークをあしらったオリジナルクッキー。来訪者への手土産に、また他学訪問へのお土産に是非
ご注文はコチラまで
新宿国際ビルディング4階
有限会社 東医社
TEL: 03-5339-3814
FAX: 03-5909-1061
E-mail: somu-t@tokyo-med.ac.jp



コロナパンフルセック[50枚入り]
3,240円(税込)

7月	6月	5月	100
大学記念会館への 年表シート掲出・ 写真パネルシート 掲出	“全員参加企画” “想いの写真募集 スタート!”	百周年記念グッズ 制作始動	近未来 動 静